

# 光市医師会報

平成5年8月号

No. 250



紫陽花

光市医師会

## 7 月 度 定 例 理 事 会

日 時：平成5年7月6日(火)  
午後7時半～

場 所：光市勤労青少年ホーム2F  
(商工会議所 隣)

### 議 題

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| (1) 郡市医事紛争担当理事協議会     | (6) 山口健康フェア開催の件        |
| (2) 郡市地域保健担当理事協議会     | (7) 創立50周年記念行事特別会計中間報告 |
| (3) 光市学校保健会理事の件       | (8) 納涼懇親会の件            |
| (4) 周南圏域老人保健福祉計画委員会の件 | (9) その他                |
| (5) 松岡満寿男氏の件          |                        |
- 以 上

## 納 涼 懇 親 会

平成5年7月22日(木) 於柳井クルーズホテル



## 新入会員紹介

### 内山和俊

光市立病院 内科

出身校 愛知医科大学医学部

所属学会名 日本内科学会

日本循環器病学会

日本心臓病学会

主な職歴

昭和62年6月～昭和63年7月

山口大学医学部第二内科入局

昭和63年8月～平成2年12月

北九州市立戸畑病院内科

平成3年1月～平成4年5月

山口大学医学部第二内科（医員）

平成4年6月～平成4年11月

米沢記念桑陽病院内科

平成4年12月～平成5年5月

山口大学医学部第二内科（医員）

## 酒の懺悔録

酒は、たしかに美味しいと思う。ことにゴルフや水泳などの後の冷えた生ビールの一杯はこたえられない。酒を少し飲むと、顔がほてり、頭がふわーとして、何とも言えない楽しい気分になり、こんなにすばらしい世の中があるのかと思う程、よい気分になる。そして、そのよい気分を持続させたいと思い、飲み続けるとつい飲み過ぎて、気分が悪くなったり、体がだるくなったりして二日酔いとなる。翌朝は頭痛、吐気をして、もう酒は止めた。酒は二度と飲むまいと心に決めるのだが、夕方になると、すっかり気分が良くなって、赤い提灯をみると、つい又飲みたくなるものである。酒とは誠に不思議な飲み物であり、全く不可思議の世の中にさせるものである。

私の酒との付き合いは、旧制中学（韓国・釜山中学）の卒業頃に始まったといってよいと思う。当時は戦争中であつたので、予

## 福本寿雄

科練、海兵、陸士に入隊入学するのが多かった。その度に送別会を催しており、必ず酒が出されていた。当時は、学校でも、家庭でも酒を飲むことを黙認されていたように思う。その折は少ししか飲めなかった。

次いで私は平壤医専（ピョンヤン）に入ってから、下宿で先輩達に酒の飲み方を伝授してもらった。当時は、酒が手に入りやすく、朝鮮人の自家酒造（密造酒）の「マツカリ」という濁酒をよく飲まされた。「マツカリ」は美味しいのもあったが、その多くは酔っぱかった。又医専の主化学教室に行き、エチルアルコールにシロップやサッカリンを入れて飲んだりした。

終戦になって日本に引揚げ、米子医専（鳥取大学）に転校してからは、食べ物もなく、酒どころではなかった。時々学校を通じてビールや日本酒を配給してくれたのでそれを友人達と持寄って細やかな酒盛りを

よくした事を覚えている。その折、酒の肴は何もないので、食塩がタクアンがあれば御馳走であった。

昭和26年に医専を卒業して、門司鉄道病院でインターンに入ったが、入ってすぐに病院の先輩達が酒を飲む手順を教えてくれた。病院内で診療終了した午後5時、風呂に入ってから、大きなヤカンと湯呑みで酒盛りがはじまる。1～2時間してから外に出て、酒店のスタンドでの立飲み、駅前の屋台でのコップ酒、居酒屋でのつけ飲み、新築キャバレーで沃しい雰囲気でのパカ騒ぎなどをよくしたものだ。そして終列車に遅れ、場末の木賃宿で雑魚寝したことも屢々あった。お蔭で給料の半分は飲み代に化けてしまった。

光に来てからは、医師会の集りと称しては、今は亡き上野、亀田、河村、田尻各先生達と、光、徳山とよく飲み歩いたものである。当時は年令も36～7才位で若いこともあって、毎日のようによく飲んだものだといつづく感心している。

しかし、よくよく考えてみると、酒を飲んで失敗したり、後悔したことがあまりにも多いように思う。

飲みすぎて、飲み屋のテーブルでも、どこでも寝てしまう。

飲みすぎて、顔が真青になって嘔吐し、それから又飲み直したこともある。

飲みすぎて、日頃は言えないことを、遠慮なくずけずけ言ってしまう。そのわりに翌日は憶えていない。

飲みすぎて、日頃から心よく思っていない人とよく口喧嘩をした。

飲みすぎて、今で言う「セクハラ」に近い

ことをしたこともある。

飲みすぎて、朝帰りして、家の者に心配をかけたこともあった。

飲みすぎて、道路で転んで、頭に怪我をしたこともあった。

30年前頃、まだ飲酒運転がやかましくない頃に、酒を飲んで自家用車でスピードを出して、警察官に「気を付けて帰って下さいよ」と注意されたこともあった。

こうしてみると、酒を飲んでいろいろの人に大変な迷惑をかけたことと深く反省している。友人達は「お前は質の<sup>タチ</sup>良い酒飲みだよ」と言われて、良い気になって飲んでいたが、最近では「お前は酒に弱くなったなあー」と言われ、最近では友人から酒の付き合いを少々敬遠されつゝあるようである。確かに年と共に酒に弱くなっているのは、否定出来ない。その為、酒を少しづつ、そして控え目に飲んで、適当に切り上げれば良いのだが、なかなかそうは旨く行ってくれない。この性格は治りそうもないと思う。

20年前（昭和47年）に酒の飲み過ぎで、急性膵臓炎を2回起し、富恵先生にお世話になった。考えてみると、その2回共に、3日連続の外での飲み会（宴会）であった。家で晩酌しておれば多量の酒は飲めないのだが、外で飲む場合は、ついつい度を越してしまう。隔日に飲むとか、週休2日法は正に当を得た方法だと思う。膵臓炎を起してから約一年間は酒は全く飲めなかったが、調子が良くなると又飲みたくなる。2～3年前に超音波で膵臓は全く異常なしと言われ、又いゝ気になって飲んでいる。現在、脂肪肝を指摘されており、こゝ1～2年間飲み過ぎた後、不整脈が起り慌てゝメキシ

チールを服用して治めている。そのような状態なのに、酒は一向に止められそうにない。

私のような意志の弱い性格ではどうしようもないが、これだけの酒飲みでも65才迄

生きてこられたのだから、今後酒で命を断つとも後悔はしないと考えている。残り少ない今後の寿命なので、愛する酒を少しづつゆっくりと楽しみながら、人に迷惑をかけないよう嗜み<sup>タシナ</sup>たいと思っている。

## 平成5年度 第1回 光医歯会コンペ

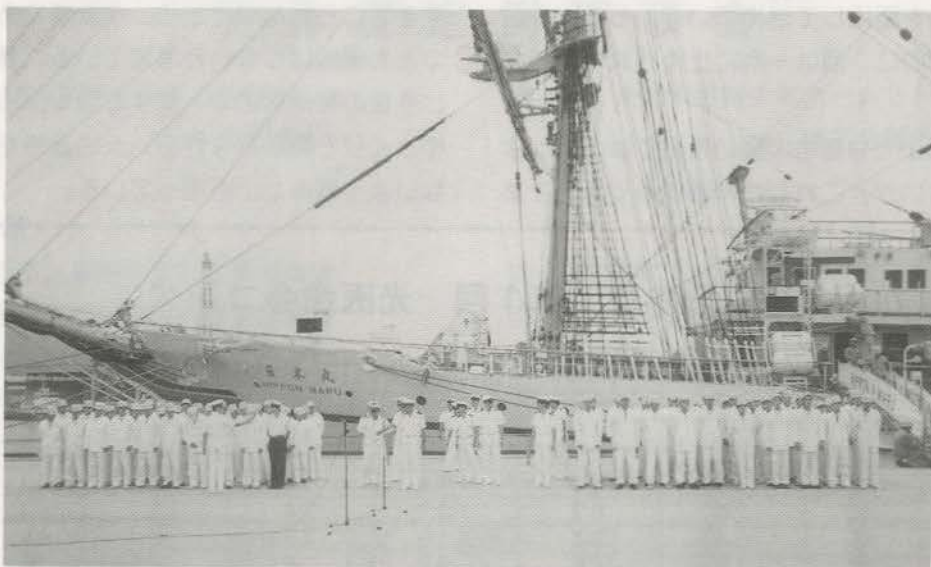
於 周南カントリー 7月4日

NAME	OUT	IN	GROSS	H. D. CP	NET	ORDER
竹 中	59	52	111	18	93	7 位
藤 村	50	45	95	6	89	5 位
前 田	58	52	110	15	95	8 位
赤 崎	57	61	118	13	105	10 位
清水	70	67	137	24	113	13 位
兼 清	64	54	118	23	95	9 位
光 武	46	46	92	8	84	優勝
市 川	71	67	138	28	110	B. B
南	66	67	133	27	106	11 位
横 山	48	45	93	6	87	2 位
森 本	47	47	94	5	89	4 位
守 田	51	50	101	8	93	6 位
諏 訪	50	49	99	12	87	3 位

B. G 光武 92 次回ハンディー  
 N. P 横山 光武 6  
 D. C 赤崎 光武 横山 5

## 7月度月間行事・会議等

月 日	曜	行 事 ・ 会 議	場 所	出 席 者
7 / 6	火	7 月 度 定 例 理 事 会	光市 勤労青少年ホーム	8 名
7 / 13	火	光市医師会創立50周年記念誌編纂委員会	光市医師会館	福本、吉村 藤原、藤村
7 / 15	木	(1) 山口県医師国保通常組合会議 (2) 郡市医師会長会議	県医師会館	福本 寿雄
7 / 18	日	第31回山口県医師会生涯研修セミナー	県教育会館	14 名
7 / 22	木	納 涼 懇 親 会	柳井クルーズホテル	23 名



### ＝ 編集後記 ＝

第75回全国高校野球選手権記念大会に光高が山口県代表として出場、光市制50周年に大きなプレゼントとなりました。

さて上の写真は7月31日、日本丸が寄港した時のものです。練習生の中に女性が11人いたそうです。年齢は平均20才だそうです。

今年の夏は台風、大雨洪水、山くずれの繰返して、連日の雨にはうんざり、夏休みで帰郷した家族も家の被害手伝いばかりさせられた様です。又台風が来ないという保障はありません。この時こそ心身の健康が試される時、皆さんお互いにタフで行きましょう。  
(藤村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	福本寿雄
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社